

## 活動団体の紹介 ②

市民参画と協働の  
まちづくり条例

### 桜ヶ丘ハイツまちづくり協議会

平成19年度に「桜ヶ丘ハイツまちづくりプラン」の実現を目指して発足し、助け合い・支え合いとしての「移動支援」、集える場作りとしての「お休み処」の2事業が始まりました。

「移動支援」は、買い物や通院が困難な高齢者の交通手段として、ボランティアが自家用車で送迎支援をする活動です。また、「お休み処」により、顔と顔の見える結びつきができています。これからもいくつもの機会をつくるため、住民に働き掛けをしていきます。



「移動支援」を利用する様子

### 里山若葉クラブ

若葉台自治会集会所周辺の山林を、地域住民の憩いの場となる里山として整備することを目的に、平成19年4月に結成しました。

整備前は荒れた山林でしたが、整備が進むにつれ、散歩コースや子どもの遊び場として利用する人が増えてきました。今後は、愛岐ヶ丘などの近隣住民にも利用してもらうため、隣接する山林を整備していきます。

会員の平均年齢は70歳を超えていますが、地域活動の経験を生かし、地域が抱える課題の解決に取り組んでいます。



里山を整備する様子

## みなさんの 善意

次の皆さんから寄付がありました。  
(敬称略)

### 市政のために…

- 高橋律子

### 社会福祉に…

- 蘇羅
- ピクチャー操歌謡教室
- 樋口てつよ
- 老人福祉センター福寿苑利用者
- 土屋伊都子

ありがとう  
ございました。



## —市内に生息する貴重な動植物— その18

### トウカイコモウセンゴケ(モウセンゴケ科)

高さ5~15cmの多年草で、山間部にある日当たりのよい酸性土壌の湿地に生息します。食虫植物で、葉の表面には粘り気のある毛が密生し、そこに止まって動けなくなった昆虫などを消化して栄養分とします。開花時期は6月ごろで、淡紅色、径1cm程度の花を、2~10個ほどつけます。

トウカイコモウセンゴケは、モウセンゴケとコモウセンゴケの雑種を起源とし、近年これらとは別種として扱われるようになってきました。主に東海地方や近畿地方に生息しています。



○県レッドデータブック：絶滅危惧Ⅱ類(コモウセンゴケ)  
※生息地については非公表



問合せ 環境課



裏側から見た3階建ての外観



問合せ 市史編さん室

明治5(1872)年の学制発布以降、可見市内にも多くの学校が作られました。市内の学校は、当初は地域の人たちで運営する「義校」形式のものも多く、兼山にも「一貫義校」が誕生しています。これが明治12年には兼山小学校となり、明治18(1885)年には、木造懸け造り3階建ての校舎が新築されました。  
崖に張り出されて建設されているため、正面からは2階建て、裏側からは3階建てに見える「懸け造り」の校舎は非常に珍しいものです。また、市内最古の現存校舎であり、全国的にも古い木造校舎の一つに数えられます。昭和7年に学校が移転した後は、町役場としても使用されました。この校舎は解体修理され、平成6年には内装の一部を建築当時のまま再現し、兼山歴史民俗資料館として開館しました。

## 学校からこんにちは 13 Educe 9

### 中部中学校

中部中学校は、東明・広見・旭の3つの小学校区を持ち、可見市の中東部に位置しています。

「考え力を合わせて やり抜く生徒の育成」を教育目標に掲げて、「1. 体をきたえ気力ある生徒」、「2. 自ら学び学力を高める生徒」、「3. 磨き合い助けあう生徒」の育成に取り組んでいます。

こうした構えを踏まえて、生徒の「自治力」をさらに伸ばすために、生徒一人一人が、鍛えられている自分・やればできる自分・成長した自分・自信を持てた自分を実感できるように努めています。その一環として、地域行事にボランティアとして積極的に参加したり、昨年度から「中部中校区児童生徒交流会」を開催して小中学校のさらなる連携を図ったりするなどの活動に、全校で取り組んでいます。

(文：山口 彰 教頭)

創立：昭和23年  
生徒数：796人  
所在地：広見 1086  
電話：62-1161



中部中校区児童生徒交流会の様子